

注意点1



人差指&小指の動きに意識を集中させること!

正確性が要求されるP.10のフレーズに対してこのフレーズでは、素早い指の動き&弦移動をマスターすることを目標にしよう。3弦から1弦へ上昇する際の人差指、1弦から3弦に下降する際の小指の動きに意識を集中させることが大切だ。特に後者の小指の移動は、指が動きづらいので、直前の人差指押弦時に小指を空中待機させておくといふ(写真①~③)。このような空中殺法を身につけることが、テクニカル系ギタリストには不可欠。クロマティック・フレーズを決して舐めるべからず。4小節目ではちょっとしたリズムの変化がある。ここは“タカカタン”を2回くり返すリズムとなっているのだが、“タン”のタイミングで人差指を1回休憩させると思えばリズムのズレを防止できるだろう。



人差指の押弦時に、小指を空中で待機させておく……



小指の押弦が楽だ。この時に薬指~人差指の準備も!



常に次の押弦を意識することが大切だ。

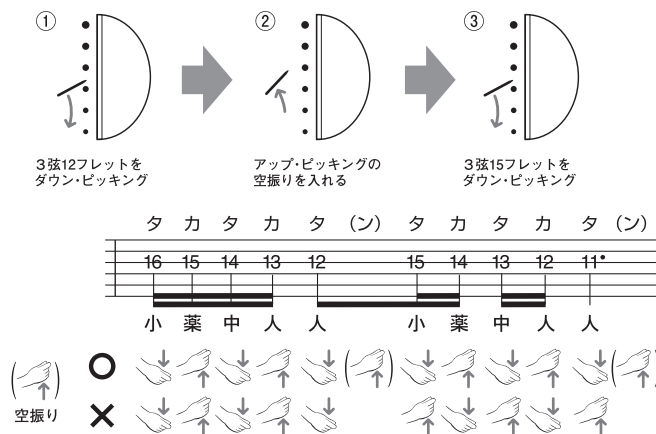
注意点2



リズムを口で歌いながら空ピッキングを行なう

このフレーズでは、最後まで16分音符による“□V□V”というオルタネイト・ピッキングをキープすることが大切だ。おそらく3小節目まではキープできると思うが、4小節目のリズム変化が少々難関と言えるだろう。ここでは“タカカタン”というリズムを口で歌いながら、“タン”の“ン”のタイミングでアップ・ピッキングを弦に当てずに空中で行なうこと(図1)。このような空振り(空ピッキング)を行なうことによって、手の振りも一定になるので、リズム・キープがしっかりとできるようになるのだ。逆にこれができないとリズム感のないギタリストになってしまうので、右図を見ながらピッキングの流れを確認してもらいたい。マスターできるまで、テンポを落として何度も練習しよう。

図1 リズム・キープのための空振り



~コラム1~

地獄の戯れ言

左手のフィンガリング・フォームは、大きく分けて2つ存在する。1つ目は、親指でネックをしっかりと握り込む“ロック・フォーム”(写真④)。これは、チョーキングやビブラートがかけやすいので、ブルース・プレイを基調としたギタリストが多く用いている。70年代ロックに影響を受けた人に多いタイプだろう。続いて2つ目は、親指をネックの裏に軽く添える“クラシック・フォーム”(写真⑤)。前者に比べて、指をストレッチさせやすいので、速弾きに向いていると言われている。フレーズに合わせて、両フォームを使い分けてもらいたい。

テクニカル系を目指すなら、ネックの握り方にもこだわれ!



ザック・ワイルドなどが用いているフォームだ。親指を使ってネックをしっかりと握り込むので、チョーキングも楽チン。



親指がネック裏にいくことで、指が開きやすくなる。ガスGなどのネオクラシカル系ギタリストに多いフォームだ。